

# パドルテニスで楽しく交流

平成9年に第5回沖縄県スポレク祭パドルテニス大会が旧東風平町で開催されたのをきっかけに同時期、パドルテニスの愛好者が「サウスパドルテニス」というサークルを結成しました。現在会員は約30名で毎週木曜日夕方8時から東風平運動公園体育館でさわやかな汗を流しています。サウスパドルテニスクラブ（会長国吉真秀）のメンバーは、町内の人だけでなく町外からも、老若男女、様々な人たちが和気あいあいとした雰囲気です。

結成した当初からパドルテニスの魅力にはまっていますという糸満市の大城巖さんは、「初心者でも簡単にできるのでみんなで明るく、楽しくやっています」とパドルテニスを通して親しい仲間も増えたと話します。また、豊見城市から来ているという大城幸子さんもパドルテニスを始めて10年目。「年齢や性別に関係なくそれぞれの体力と運動能力に合わせてプレーできるので適度な運動に最適」



大城幸子さん



大城巖さん

とパドルテニスをする事で体力や健康を維持できると話します。

県パドルテニス協会理事長兼事務局をしている金城隆雄さんは、「パドルテニスを通してさわやかな汗を流しながら心身の健康を図り交流の和を広げていきたい。興味のある人がいれば気軽に足を運んでほしい。」と多くの方の参加を呼びかけています。



サウスパドルテニスクラブのメンバー

## チヨビは家族の一員、ずっと元気でいてほしい



長毛の平良隆二さんは6年前に交通事故で下半身麻痺になった愛犬「チヨビ」のために犬用の車椅子を製作しました。獣医からは、「一年ももたない」と短命を告げられながらも平良家の介護によって可愛がられています。

もう飼いはじめて16年になるというチヨビは隆二さんが高校生の頃に友人から譲り受け平良家に引き取られました。穏やかな性格で人なつっこく工場の近くを走り回る元気な犬でしたが、6年前の深夜、近くの県道で交通事故に遭い下半身が麻痺状態に。事故当時、容態は深刻で獣医からは、安楽死をすすめられたこともありましたが、「どうせ長くない命なら歩かせることだけでも」。これが車椅子をつくるきっかけになりました。家族の親身な看護によってチヨビは徐々に回復を見せ、2ヶ月後には、

車椅子に乗りながらも、当時のように工場近くを走り回れるくらい元気な姿に。今でも食事と排泄の介助は必要ですが「チヨビは家族の一員なのでこれからもずっと元気でいてほしい」と隆二さんは祈るように話しました。



今日も隆二さんと散歩にでかけるチヨビ